

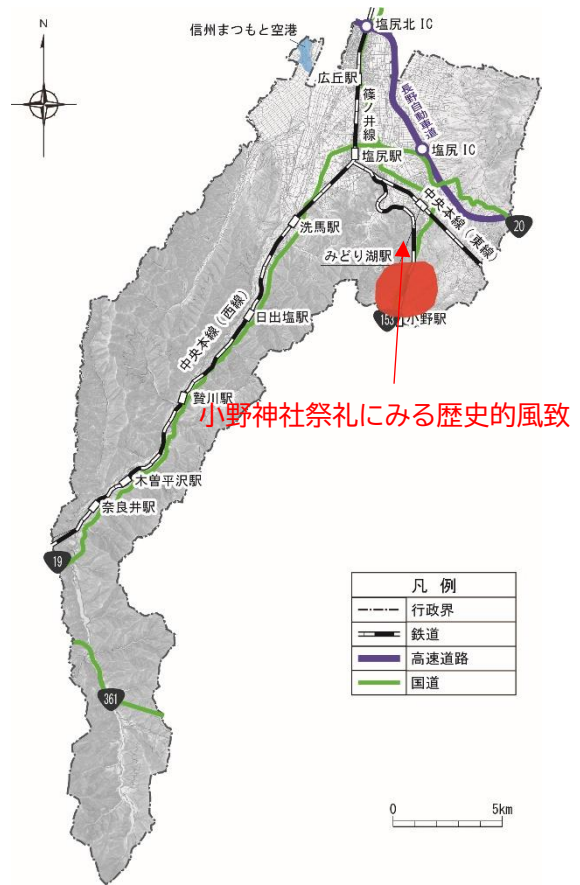
(3) 小野神社の祭礼にみる歴史的風致

ア はじめに

塩尻市の南に位置する北小野地区は、北側は善知鳥峠^{うと}を越えて松本盆地、南側は小野地区を経て伊那盆地、東側は東山を越えて諏訪盆地に接しています。中世末期まで現在の上伊那郡辰野町大字小野と1郷1村でしたが、天正19年(1591)に松本藩と飯田藩の藩境争いが豊臣秀吉に裁定されたときに、北の松本領分は筑摩郡北小野村、南の飯田領分は伊那郡小野村となりました。その際、小野神社の社地も分割され、北側を筑摩郡・小野神社、南側が伊那郡・矢彦神社となりました。

小野神社は矢彦神社とあわせて、小野南北大明神と称せられ、諏訪上下神社の信濃国一之宮に続き、信濃国二之宮として、崇高されており、諏訪御柱祭りの翌年の卯年と酉年に御柱祭りが行われます。また毎年1月6日の夜には長さ1.2mの棒を奪い合うねんじり棒祭を行っています。

北小野村は天正19年(1591)の分割後、安永9年(1780)に勝弦新田^{かつづる}一村独立となり2村となり、その旧北小野村、現在の古町区、宮前区、大出区、上田区の4集落が小野神社の氏子として御柱祭りを開催しています。



位置図

イ 歴史的風致を形成する建造物

(ア) 小野神社

(本殿2棟・八幡宮本殿1棟・勅使殿1棟は県宝(建造物)平成4年(1992)指定)

小野神社の創立時期は不明ですが、諏訪神の垂迹^{すいじゃく}の地と古くから伝えられており、建御名方^{たけみ}命^なを祀る旧県社^{かたのみこと}です。現存社殿は、寛文12年(1672)

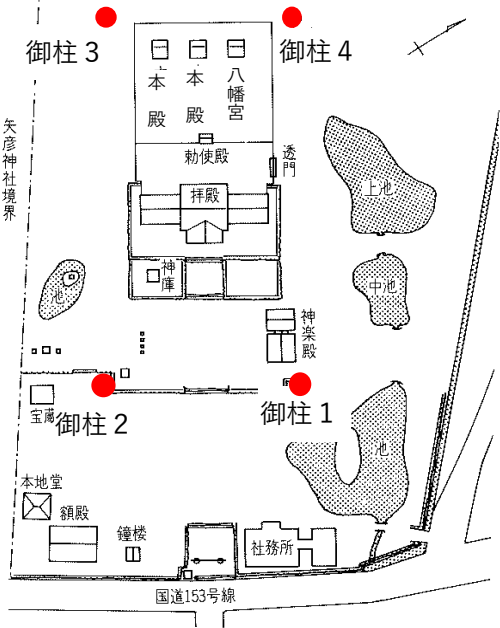


小野神社

4月に主要社殿が焼失した後、松本藩によって同年9月までに再建されたものです。その経過は棟札に記載されています。

社殿は南東に正面を向けて、2棟の本殿とその右側に八幡宮本殿が横一列に並び、前方の中央に勅使殿、さらにその前方に拝殿が建っています。2棟の本殿は全くの同一規模、同一形式となっており、白木造の一間社流造です。屋根は現在では銅板葺ですが、昭和14年(1939)の写真では檜皮葺、さらにそれ以前は柿葺だったと考えられています。これら、本殿2棟と八幡宮本殿、勅使殿の4棟は平成4年(1992)に県宝に指定されています。

また、社地内の社叢は、自然林に近く古代のこの地方の林相の遺物として貴重という理由で昭和35年(1960)に長野県の天然記念物として指定されています。



小野神社 配置図

ウ 歴史的風致を形成する活動

(ア) 御柱祭

小野神社御柱祭りは、諏訪大社御柱祭りの翌年にあたる卯の年と酉の年の7年目ごとに行われます。北小野4区の周辺の山で生長した4本の巨木を元伐りして曳きおろし、神社境内の4箇所^{えい}に曳行して建て御柱となる総合的な祭りと、2棟の本殿に御祭神が一方から一方へ遷座^{ごせんざ}される御遷座祭の儀式で成り立っています。

この祭りがいつから始まったのか確かではありませんが、永禄4年(1560)3月の『武田信玄朱印状』に「伊那郡小野社

小野神社御柱祭 祭 事	開催時期
仮見立て	前年4月
本見立て	前年7月
注連掛祭	前年7月
元伐り祭	前年11月
綱縋り祭	1月
山出し祭	3月
御遷座祭	4月
里曳き祭 建御柱祭	5月

御柱祭 スケジュール

御柱の年にあたるため、小野南方及び飯沼に普請役を免除する」旨の記載があることから、大変長い歴史をもつ祭りということが確認できます。

また、昭和 62 年（1987）刊行の『北小野地区誌』によると、慶長 20 年（1615）、松本藩主小笠原秀政が大坂夏の陣への出陣に際し、戦勝祈願のため波多（現松本市波田）の藩林から松の御柱を伐採し寄進しており、それは慶応 3 年（1867）まで中断されることなく続いたとされています。距離にして約 25km 以上を周辺の村民により曳行され、多くの人々が関わってきたことが分かっています。

御柱祭では木遣り衆の唄や、御遷座祭の牛炬火、里曳きの際の騎馬行列の奉納、長持と傘踊り、憑飛躍太鼓の奉納などが行われ、祭りを盛り上げます。

こうした一連の祭りは、伝統的な祭礼を誠実に行之、地域住民が一体となり結集するまつりの壮快さ、豪快さから、平成 18 年（2006）に市の指定無形民俗文化財に指定されています。

・ 木遣り唄とは・・・

木遣り唄は古くから大人数で重いものを動かすときに力を揃えるために歌う唄で、「木遣り」ともいわれています。木遣り唄を歌う木遣り衆は木遣り保存会の子供から高齢者まで幅広い年齢層で構成され、御柱の曳行や長持をかつぐときなど、それぞれ歌われますが、唄の文句や節廻しは、その行事や作業によって異なります。



木遣り唄を歌う木遣り衆

【仮見立て・本見立て】

あらかじめ神社総代が、北小野地区内の個人所有林・財産区有林などから御柱献木候補の下見をし、御柱にふさわしい大木を選定することを仮見立てといいます。

本見立ては、神社総代のほか神職などの関係者により正式に御柱としての見立てを行い、柱の順番を決定するものです。御柱木は所有者から神社に献納する形式となります。



本見立て

【注連掛祭】

見立てをした御柱木に注連縄を張り、榊を立てて供物をささげ、神職のお祓いと祝詞奉・参列者の玉串拝礼等が行われ、木遣り唄も奉納されます。以後、大木は御神木となります。



注連掛祭

【元伐り祭】

各地区から選ばれた元伐り奉仕者と献木者・神職・総代などの関係者が参加し、御柱を伐採する行事が行われます。神職のお祓い・祝詞・玉串拝礼・神木御霊儀の後、白装束に身を清めた奉仕者が、古式に則り、斧と鋸を根元に入れます。本伐りの前後には木遣り衆による木遣り唄が、静かな山々にこだまし、オンベが打ち振られ、祭りが盛り上がります。



元伐り祭

【綱縋り祭】

地区ごとに全戸の参加により、御柱の引き綱を縋る祭りです。綱の長さが33尋（約60m）となるように各区2本（男綱・女綱）ずつ縋り、御柱祭りの盛り上がりと共に区民の結束を願い、区内を練り歩いてから、神社に奉納されます。



綱縋り祭

【山出し祭】

御柱祭りの中で最も勇壮で見ごたえのある祭りです。当日は花火の音を合図に役員・氏子一同が神社に集合し、お祓いを受けた後、国旗・神社旗・区旗を先頭に曳き綱を担ぎ、元伐りの場所まで登り、神事が行われます。神事が済むと木遣り衆が勢揃いし、このときとばかりに木遣り唄を披露します。ラッパ隊や



山出し祭

爆竹・花火も加わり華々しいスタートとなります。山出しは区民の協力一致で行い、元綱・梃子・追綱といった各担当等が操作をしながら、急な斜面を豪快に曳き下ろされます。

各地区で決めた平坦地の御柱^{ほうち}奉置所まで曳行された御柱は、横木の台にのせられ、引き綱や後綱を外し、根元の前に2本の葉竹を立てた後、注連をかけて修祓式が行われます。この奉置所で里曳き祭まで安置されることとなります。

【御遷座祭】

建御柱祭のおよそ12日前の卯又は酉の日の夜半、小野神社の御神体があらたな本殿に遷^{うつ}す神事が、神職のほか多くの関係者により厳かに行列をなして行われます。鈴の先導で小野神社総代会長が提灯を持ち、それに宮司・神官が続き、そのあとを弓・矢・大鉦^{おおほこ}を捧持^{ほうじ}した参加者がつきます。一行は、牛^{うし}炬火^{たいまつ}が炊かれた広場を通り、拝殿前でお祓いを受けて一列となり、本殿を囲みます。御神体を捧持する宮司は、暗闇の中で本殿から隣の本殿に御遷しされます。その後、本殿に移動し、神事を行い、神事終了後には木遣り唄、長持ち、太鼓などが奉納されます。



御遷座祭



牛炬火

【里曳き祭・建御柱祭】

山出し祭で御柱が曳きつけられた奉置所から小野神社までの里曳き及び建御柱が氏子総出で行われます。各地区では数日前から、大^{のぼり}幟^{とうろう}、五ツ灯籠や提灯、色鮮やかな切り下げなどの飾りつけを行います。また小野神社境内にも大幟、提灯、五ツ灯籠、威儀^{いぎ}のもの（遷座祭で使われた神具）などが飾られます。



里曳き祭

「人を見たけりや諏訪御柱、綺羅^{きら}を見たけりや小野御柱」と伝えられるように小野神社御柱祭りに参加する人々の衣装は粋で美しいとされています。そうしたきらびやかな衣装を身につけた氏子はもとより親戚縁者や一般見物人も参加して、御柱は神社まで曳かれ、御柱祭りは最高潮となります。神社に曳きつけられた御柱は冠^{かんむり}落し（先端を三角錐に整えること）の後、神楽^{かぐら}棧（4本の長い柄を押して軸を回転させ御柱に結び付けた綱を巻き上げる道具）で建てられます。御柱が次第に傾斜を増しながら建てられていく様子は、壮観な眺めとなります。



昭和 14 年(1939) 里曳き祭



神楽棧



建御柱祭

(イ) ねんじり棒祭（市無形民俗文化財 昭和 45 年（1970）指定）

氏子の無病息災、五穀豊穡を祈念するお祭り「御田作祭」で、ねんじり棒祭と呼ばれています。ねんじり棒祭は毎年 1 月 6 日の夜、小野神社氏子である若者が住んでいる区へ棒を奪い合いながら引き込む奇祭で、昭和 45 年（1970）に市の無形文化財（のちに無形民俗文化財）に指定されています。始まりは平安時代ともいわれていますが定かではありません。

あらかじめ 1 年を 12 カ月で表す 12 本の長さ 1.2m、太さ一握りほどの棒を用意し、棒の片側の先端を四面に削って尖^{とが}らせます。もう片側の先端には御田作祈年祭の焼印と番号を記し、神官から一の棒から七の棒まで順に受けて、力比べをしながら練り歩き、住んでいる区へ引き込むと豊作とされています。練った棒は神社に戻し、一の棒から順に十数本の麻縄に鉄輪を結んであるくじを年長順に引き、分配します。引き当てた棒に区の若者が集まり、神社が用意する鏡餅を棒の先にさし、「メンヨー、サンヨー」と唱えて、胴つきをします。胴つきされた鏡餅はお供えにいただき、近年では中学生用や小学生用も準備され、青年に準じて行われます。



ねんじり棒祭



ねんじり棒祭 胴つきの様子

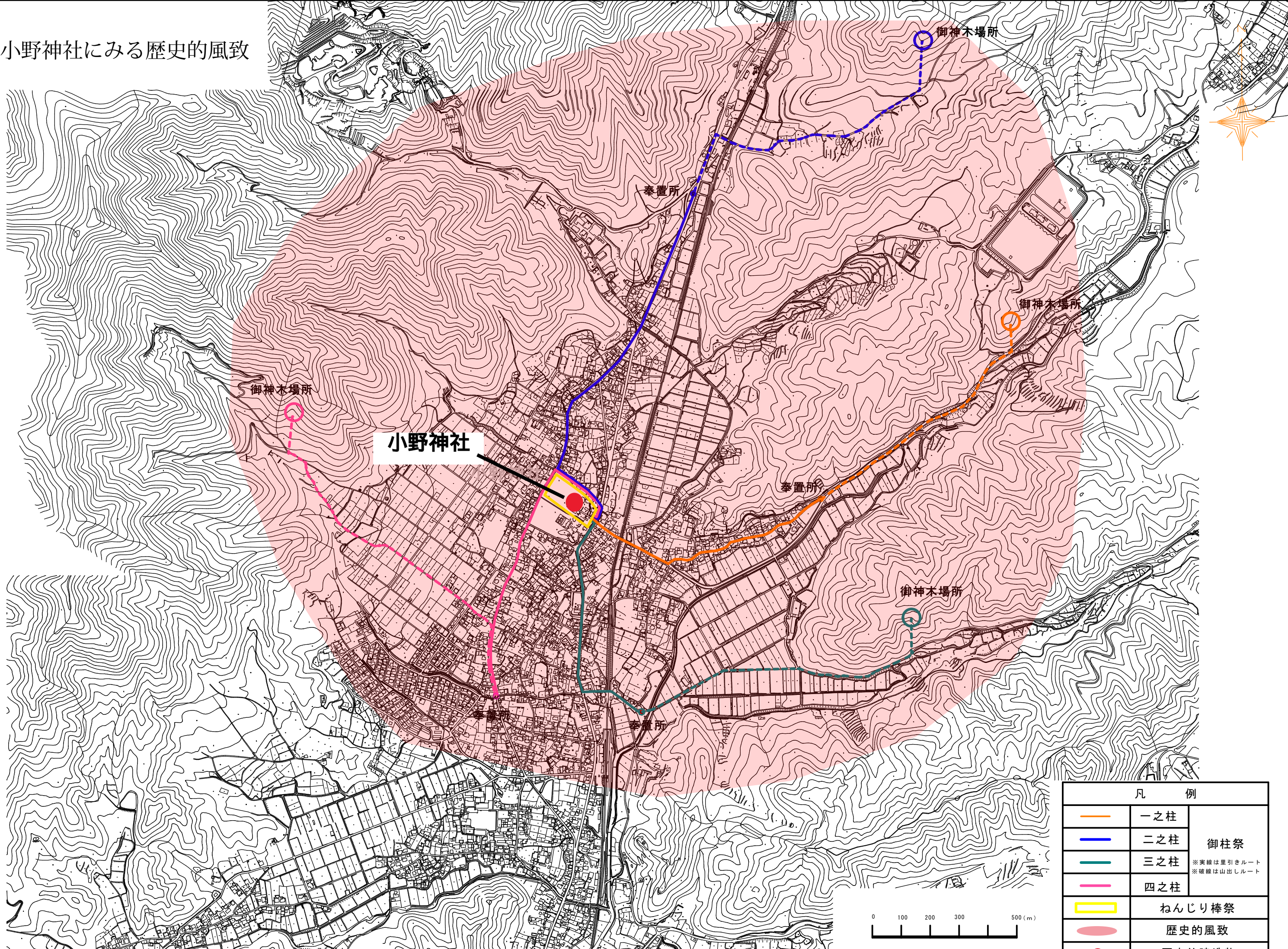
エ まとめ

御柱祭りの元伐り祭では、山々に木霊する木遣り唄により、人々の気持ちは高揚し、建御柱まで地域住民が一体となって祭りを盛り上げます。特に、里曳き祭では住民総出となり、地域中に木遣り唄が響き渡り、普段は厳かな社叢に囲まれた境内地に住民や見物人が溢れかえります。

また年の初めに氏子が集まり、「メンヨー、サンヨー」と唱えながら、餅を胴付きするねんじり棒祭では、静まり返った里に人々の声や境内の石畳にねんじり棒を突く音が響き渡り、正月ならではの風情となっています。

これらが小野神社を中心として周辺の山々や農村風景などと一体となり、歴史的風致を形成しています。

小野神社にみる歴史的風致



凡 例		
	一之柱	御柱祭 ※実線は里引きルート ※破線は山出しルート
	二之柱	
	三之柱	
	四之柱	
	ねんじり棒	
	歴史的風致	
	歴史的建造物	